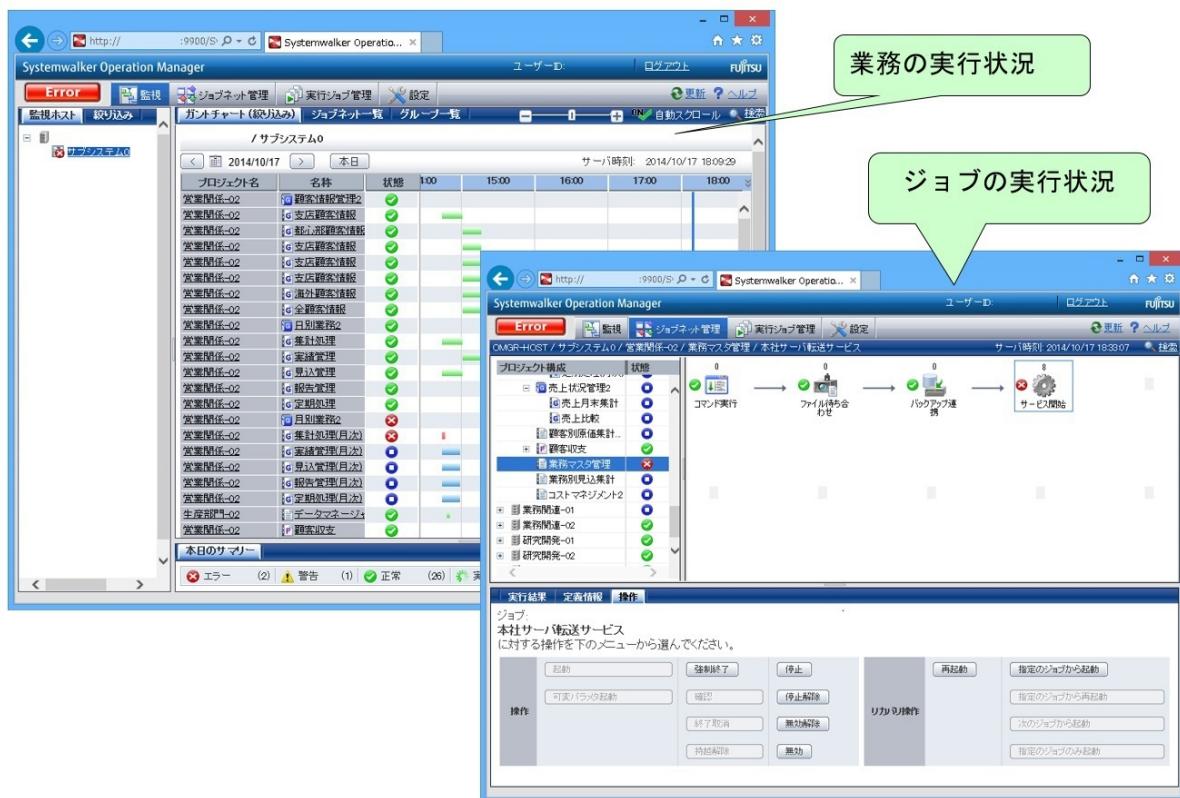


Fujitsu Software

Systemwalker Operation Manager Standard Edition V17.0.1

本商品は、業務の自動運転を実現する商品です。本商品を使用することで、ネットワーク(LAN/WAN)上に分散配置された各サーバにおける定型業務のスケジューリング/実行監視/操作などが可能になり、業務運用のトータルな自動化、安定稼働と低コスト運用を実現することができます。バッチ業務の実行にあたっては、キー制御や優先度制御などによるきめ細やかな制御も可能です。Standard Editionは、小規模から大規模な環境に対応した標準モデルです。

【業務の監視画面】



- ・ **サーバ**

SPARC Servers / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Enterprise Tシリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Cloud Service for SPARC

- ・ **リモートマシン（インストールレス型ジョブ実行制御機能を利用時）（詳細は留意事項を参照）**

SPARC Enterprise Tシリーズ / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Servers / PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Cloud Service for SPARC / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- ・ **クライアント**

FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

- ・ サーバ

Solaris 11(64bit)

- ・ リモートマシン（インストールレス型ジョブ実行制御機能を利用時）（詳細は留意事項を参照）

Solaris 11(64bit) / Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit) / Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)

- ・ クライアント

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit)

1. システムの自動運転

(1) サーバの電源スケジュール

サーバの電源を自動的に切断することができます。サーバの電源切断は、あらかじめ登録したタイムスケジュールに従って行われます。

(2) サービス・アプリケーションの起動

サービスやアプリケーションの起動日を登録することにより、OSの起動時に登録したサービスやアプリケーションが指定の順序で自動起動できます。

2. 業務スケジュール

(1) 定型業務のスケジュール

定型業務をスケジュールすることで業務運用を簡素化し、オペレータの作業を大幅に軽減することができます。

- 年次、月次、週次、特定日などの業務の起動日をカレンダで自由に指定できます。また、第1, 3, 5営業日(稼働日)といった一般業務形態での利用に沿った形で起動日の指定ができます。
- 起動時刻の設定により、業務を自動起動できます。
- 専用のエディタで複雑な業務も簡単な操作で構築できます。
- 飛び込み業務や緊急業務の起動、実行中業務の強制終了、保留や解除など、業務の制限を設定できます。
- メッセージの待ち合わせによりサーバ間での業務の連携が可能です。

他サーバからのファイル転送やメール受信を待ち合わせて自動起動することもできます。

- 指定した起動日だけ起動するジョブ(子ジョブネット)を含むジョブネットを作成することができ、より柔軟なジョブの自動運用を行うことができます。

[スケジュール可能な業務]

- サーバのバッチ業務
- オンライン業務(Interstageのワークユニット)
- ERP製品の業務(SAP ERPジョブ)
- Oracle E-Business Suite業務(コンカレントプログラム)
- クライアント業務のスケジュール(クライアント業務連携)

(2) クライアント業務のスケジュール

クライアントの業務(ファイルの転送、アプリケーションの起動、ファイルの圧縮/解凍)や電源投入/切断のスケジュールができます。

サーバ・クライアント間での連携した業務のスケジュールも可能です。

(3) ポリシー運用

運用方針(システムのスケジュールや業務の定義/スケジュール等)を一台のサーバに定義し、ポリシーとして他のサーバに配付するだけで複数サーバの業務運用の定義がリモートから一括で行えます。

3. 業務運用

(1) ジョブの実行制御

バッチジョブのキュー管理によりジョブの順次実行を保証します。また、優先順位制御や同時実行数の制御によりバッチ処理によるシステム負荷を一定以下に抑えることができます。

- 業務に合わせたキューの設定により効率的にジョブを制御できます。
- システム全体で同時に実行するジョブの数を制限できます。
- キュー単位で同時に実行するジョブの数や投入ジョブ数を制限できます。バッチ業務運用の負荷を軽減し、システムの稼働効率が向上します。
- 複数のジョブ実行サーバをグループ化することにより負荷分散が行えます。
- 同一資源を使用する複数のジョブの排他制御が行えます。

- Systemwalker Operation Managerをインストールしていないリモートマシンへジョブの実行を依頼できます。リトライ動作のカスタマイズにより一時的なネットワーク異常時におけるエラーの回避や実行サーバがダウンしていた場合での迅速な異常の検知を行うこともできます。

(2) アクセス制御

ユーザーに権限を設定し、ユーザーの識別、認証により、プロジェクトやディレクトリ、ファイルに対するアクセス制御を行います。

(3) 業務の稼働状況の監視

スケジュールした業務の稼働状況や実行結果を状態別に色分けして監視画面に表示します。

(4) Webコンソールからの監視 / 操作

Systemwalker Operation Managerが導入されていないコンピュータからでもWebコンソールから業務の管理および制御ができます。監視だけでなく、業務が異常終了している場合には、再起動などの対処ができます。

(5) 想定稼働管理

業務の起動予定期刻および実行予測時間、終了予定期刻について想定通りに稼働しているか監視することができます。想定通りに稼働していない場合は、自動的にメッセージを通知することもできます。

また、Systemwalker Centric Managerと連携することで、Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバが監視しているネットワークやシステムの異常とあわせて業務の異常を監視し、Systemwalkerコンソール画面の該当イベントよりSystemwalker Operation Managerのクライアントを直接呼び出すことも可能です。

(6) アクションの自動実行

業務の稼働状況をイベント通知することで、Systemwalker Centric Managerと連携し、イベントの発生時にメール送信や対処するアプリケーションの起動といったアクションを自動的に行うことができます。

(7) 複数サーバの統括的な監視 / 操作

複数サーバのバッチジョブを单一画面で一括して監視 / 操作を行うことができます。

4. 実績管理

(1) 実行結果の管理 / 分析

異常発生時の開始時刻や終了時刻、エラー、プログラム出力情報など、蓄積された実行結果を参照することができます。

業務の稼働実績情報をCSV形式で出力することができます。Microsoft Excelなどの表計算ソフトを利用したレポート作成が可能です。

また、Systemwalker Service Quality Coordinatorとの連携により、以下のバッチとリソースの関係を可視化することができます。

- ジョブ走行多重度とサーバリソースの関係
- 実行待ち状況とサーバリソース（全体 / ジョブのみ）の関係
- プロジェクトごとのジョブネットの走行多重度

(2) 監査ログの出力

ログインや業務の定義変更、手動の操作をログに記録し、ログ情報より「いつ」「誰が」「何をした」かを確実に追跡し、業務の操作ミスや不正なアクセスを特定することを可能にします。

(3) 稼働実績の印刷

業務の実行予定、実行結果、ジョブネットの構成情報などを画面表示と同じイメージで印刷できます。

5. 大規模システム対応

(1) 大規模な業務スケジュール

大量のジョブネットが登録されたシステムでも安定したバッチ業務運用が行えます。

(2) 大規模な業務の登録・管理

大規模な業務においても、CSVファイルからの大量のジョブネット登録などにより、管理が容易に行えます。

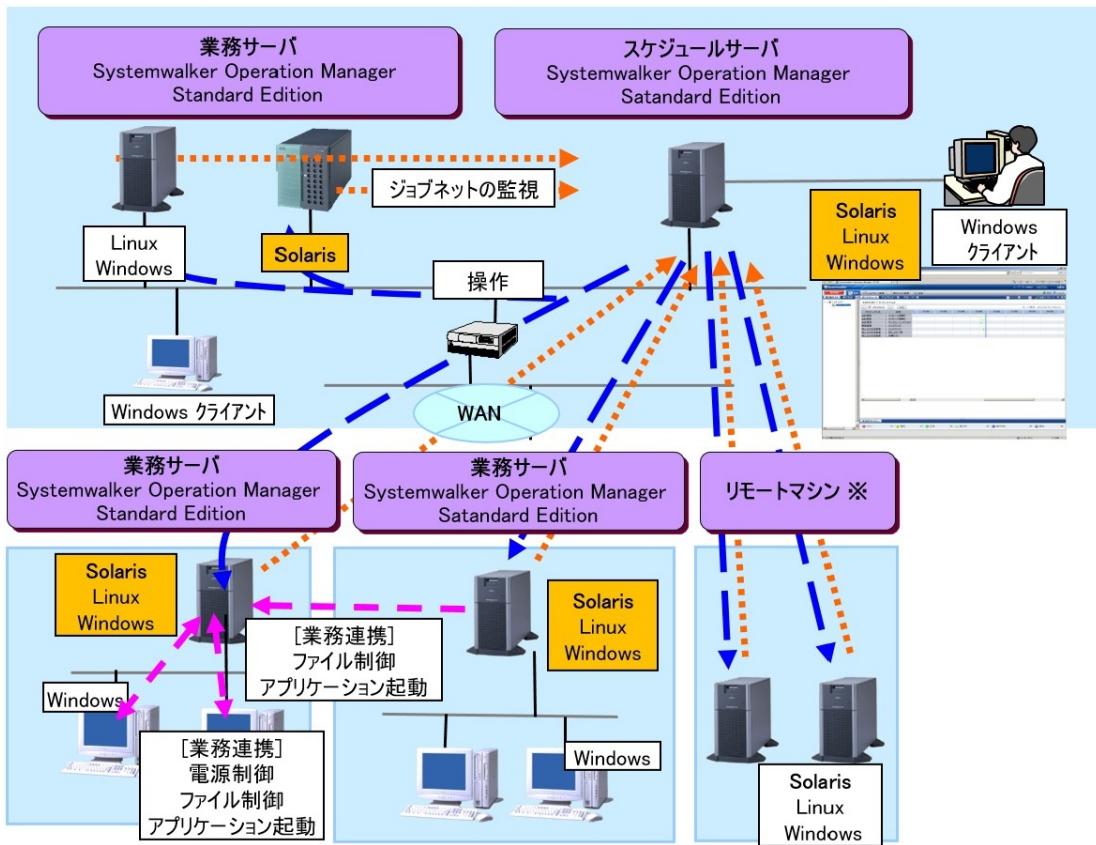
Job DesignerによりCSVファイルを読み込むだけでジョブネット間の先行・後続関係を簡単に自動生成でき、作業の効率化が図れます。Job Designerはジョブネット設計書を作成することにも活用できます。ジョブフロー図など視覚的な情報が自動で作成でき、設計書の変更が効率的に行えます。

6. インストールレス型ジョブ実行制御

Systemwalker Operation Managerをインストールしていないリモートマシン上で、リモートマシン上のバッチファイル/シェルスクリプト、コマンド、実行プログラムを実行することができます。

リモートマシン上のバッチファイル/シェルスクリプト、コマンド、実行プログラムをジョブとして実行し、実行後の出力結果・終了コードを取得することができます。また、実行されたプログラムに対して強制終了操作が行えます。

システム/機能構成図



※) リモートマシンに依頼する場合はスケジュールサーバにV16.0以降をインストールする必要があります。

V17.0.0からの強化項目は以下のとおりです。

1. 新規環境への対応

インストールレス型ジョブ実行制御機能が対応するリモートマシン側のOS

Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)に対応いたします。

Job Designer動作環境

Microsoft(R) Excel 2021(x86版/x64版)に対応いたします。

2. 機能改善

ジョブファイルの検索に使用するPATH環境変数に、任意のパスを追加できるようになりました。

パスを、PATH環境変数定義ファイルにまとめて定義することで、ジョブごとにフルパスで指定する必要がなくなります。

- ・オンラインマニュアル

・オンラインマニュアルについては、留意事項の「オンラインマニュアルについて」を参照ください。

【メディアパック】

- Systemwalker Operation Manager Standard Edition メディアパック (64bit) V17.0.1

【永続ライセンス】

- Systemwalker Operation Manager Standard Edition プロセッサライセンス (1年間24時間サポート付)
V17
- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) (1年間24時間サポート付)
V17 [Solaris版]

本商品の永続ライセンス製品には、初年度の「SupportDesk Standard」がバンドルされています。

【サブスクリプションライセンス／サポート】

[サブスクリプションライセンス／サポート(月額払い)]

- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Linux (SL&S)
- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S)

[サブスクリプションライセンス／サポート(まとめ払い)]

- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Linux (SL&S) 7年
- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S) 7年

1. メディアパックについて

メディアパックは、媒体（DVD）のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。また、商品の導入にあたり、最低1本のメディアパックが必要です。バージョンアップ／レベルアップを目的に本メディアパックのみを手配することはできません。

2. ライセンスについて

(1) プロセッサライセンスについて

プロセッサライセンスは、本商品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要となるライセンスです。

- ・シングルコアプロセッサの場合は、1プロセッサ（COD モデルの場合は CPU RTU ライセンスを持つ 1 稼働CPU）あたり 1 本の購入が必要です。
- ・マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。
 - SPARC M12/M10 では、CPU コアアクティベーションキーにより有効化されたコアの総数に特定の係数を乗じます。
 - SPARC Enterprise/PRIMEPOWER の COD モデルでは、CPU RTU ライセンスを持つ稼働 CPU 上のコアの総数に特定の係数を乗じます。

マルチコアプロセッサにおける係数については、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（インフォメーション＆ダウンロード）」内、「ライセンスについて、くわしく知る」を参照ください。

(2) クライアントライセンスについて

Systemwalker Operation Manager Standard Editionでは、Systemwalker Operation Manager クライアントをインストールフリーで導入できます。

3. リモートマシン用ライセンスを購入する条件

以下の場合に、Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス（リモートマシン用）を購入してください。

- ・Systemwalker Operation Managerをインストールしないリモートマシン上のバッチファイル／シェルスクリプト、コマンド、実行プログラムを本商品のmjrmjobコマンドを使って実行（「インストールレス型ジョブ実行制御」といいます）する場合、リモートマシン側のプロセッサ数に応じて購入してください。

なお、プロセッサ数の考え方については、購入方法2項「ライセンスについて」の「(1) プロセッサライセンスについて」を参照ください。

また、Systemwalker Operation ManagerをインストールしないリモートマシンのOSに合わせてライセンスを購入してください。Linux向けおよびWindows向けにはサブスクリプションライセンスを提供しています。サブスクリプションライセンスについてはLinux版またはWindows版のソフトウェアガイドを参照してください。

4. ダウングレード使用（旧バージョン商品の使用）について

本商品のライセンスでは、ダウングレード使用（本商品の旧バージョンを使用）する権利はありません。対象のバージョンを使用する場合は、対象のバージョンに対応したライセンスをご購入ください。

5. 購入時の特約事項

永続ライセンスの契約におけるライセンス使用条件の特約事項について記載します。

[Solaris版Systemwalker Operation Manager Standard Edition プロセッサライセンス（1年間24時間サポート付）に適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、ライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。

本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

(3) インストールレス型ジョブ実行制御について

お客様は、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、本製品により、対象プログラムに含まれる「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用することはできません。「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用して管理対象コンピュータのジョブを実行する場合、お客様は別途当該機能に関するライセンスを購入する必要があります。

[Solaris版Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) (1年間24時間サポート付)に適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、ライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。

本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

(3) 対象プログラムのインストールについて

ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、本製品により、お客様は対象プログラムをコンピュータにインストールすることはできません。

(4) インストールレス型ジョブ実行制御について

本製品により、お客様は、対象プログラムに含まれる「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用して、日本国内の管理対象コンピュータに対象プログラムをインストールすることなく、ジョブを実行できます。この場合、当該管理対象コンピュータに搭載される中央処理装置（プロセッサ：CPU）の合計数はライセンス条件説明書に定めるライセンス数に限られるものとします。なお、ライセンス定義およびライセンス定義変更の場合の取扱に関しては、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号に指定の「プロセッサライセンス定義書」に従うものとします。

サブスクリプションライセンス／サポートの契約におけるライセンス使用条件の特約事項について記載します。

【V17.0.0以降】

[Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S) / Linux (SL&S)に適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス／サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) 対象プログラムのインストールについて

サブスクリプションライセンス / サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、本製品等により、お客様は対象プログラムをコンピュータにインストールすることはできません。

(3) インストールレス型ジョブ実行制御について

本製品等により、お客様は、対象プログラムに含まれる「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用して、日本国内の管理対象コンピュータに対象プログラムをインストールすることなく、ジョブを実行できます。この場合、当該管理対象コンピュータに搭載される中央処理装置（プロセッサ：CPU）の合計数はサブスクリプションライセンス / サポート製品のサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数に限られるものとします。なお、ライセンス定義およびライセンス定義変更の場合の取扱に関しては、サブスクリプションライセンス / サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号に指定の「プロセッサライセンス定義書」に従うものとします。

6. 購入例

以下に示すシステム構成の場合、購入対象商品と購入数は下記のようになります。

(A) 購入例1 インストールレス型ジョブ実行制御機能を利用しない場合

〔システム構成〕

サーバ(2コア、1CPU構成):2台

サーバ(2コア、2CPU構成):2台

〔対象商品と購入数〕

- Systemwalker Operation Manager Standard Edition メディアパック (64bit) V17.0.1
必要数分
- Systemwalker Operation Manager Standard Edition プロセッサライセンス V17 (2コア×1CPU×コア係数)×2台分 + (2コア×2CPU×コア係数)×2台分

(B) 購入例2 インストールレス型ジョブ実行制御機能を利用する場合

〔システム構成〕

サーバ(2コア、2CPU構成):1台

リモートマシン(Solaris、2コア、1CPU構成):1台

リモートマシン(Linux、2コア、1CPU構成):1台

リモートマシン(Windows、2コア、1CPU構成):1台

〔対象商品と購入数〕

- Systemwalker Operation Manager Standard Edition メディアパック (64bit) V17.0.1 (必要数分)
- Systemwalker Operation Manager Standard Edition プロセッサライセンス V17 (2コア×2CPU×コア係数)×1台分
- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) V17 [Solaris版] (2コア×1CPU×コア係数)×1台分
- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Linux (SL&S) (2コア×1CPU×コア係数)×1台分
- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S) (2コア×1CPU×コア係数)×1台分

7. 12.x以降からのバージョンアップ / レベルアップについて

以下の商品をお持ちの場合は、有償サポート・サービス「SupportDesk」のサービスの一環として、最新バージョン / レベルを提供いたします。また、32ビット商品と64ビット商品間での切り替えも可能です。（お客様からのご要求が必要です。）

「SupportDesk」を導入されていない場合は、新バージョン / レベル商品を改めてご購入頂く必要があります（価格の優遇はございません）のでご注意ください。

なお、「SupportDesk」の詳細については、弊社営業/SEにお問合せください。

[12.x以降からのバージョンアップ / レベルアップ対象商品]

- Systemwalker Operation Manager Standard Edition 12.x/V13/V16

8. 11.x以前からのバージョンアップについて

11.x以前の本商品をお持ちの場合は、弊社営業/SE にお問い合わせください。

1. Systemwalker Centric Manager連携

Systemwalker Centric Managerでジョブネットの実行状態を監視する場合、以下のいずれかの商品のエージェント機能を同じサーバ上に共存させる必要があります。

- Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.5.1以降
- Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.5.1以降
- Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition V13.5.1以降

2. Systemwalker Service Quality Coordinator連携

Systemwalker Service Quality Coordinatorと連携し、バッチとリソースの関係を可視化する場合、以下のいずれかの商品のエージェント機能を同じサーバ上に共存させる必要があります。

- Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition V13.5.0以降
- Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition V13.5.0以降

3. SAP ERP または Oracle E-Business Suite との連携

SAP ERPジョブ または Oracle E-Business Suite のコンカレントプログラムをSystemwalker Operation Managerを使ってスケジュールする場合、以下の商品が必要です。

- Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携 V13.6.0以降

連携可能なSAP ERP または Oracle E-Business Suite のバージョン/レベルについては以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携ガイド SAP ERP 編
- Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携ガイド Oracle E-Business Suite編

4. Job Designer機能の使用環境

Job Designer機能を利用してジョブネットの作成を行う場合、以下のソフトウェアならびに動作環境が必要です。

【必要ソフトウェア】

- Microsoft Excel 2016(x86版/x64版)
- Microsoft Excel 2019(x86版/x64版)
- Microsoft Excel 2021(x86版/x64版)
- Excel for Microsoft 365(x86版/x64版)

【動作環境】

CPU:2 GHz 以上の x86 または x64 プロセッサ (SSE2 命令セットに対応)

メモリ:512 MB の RAM

ハードディスク空き容量:100 MB の空きディスク領域

5. インストールレス型ジョブ実行制御機能を使用する場合

インストールレス型ジョブ実行制御機能を使用する場合は、リモートマシン上にSSH V2.0以上が必要となります。

- リモートマシンのOSがSolarisまたはLinuxの場合

OSの標準機能としてインストールされています。SSHがインストールされていない環境では、OpenSSHをインストールしてください。

- リモートマシンのOSがWindowsの場合

SSHがインストールされていない環境では、OpenSSH(cygwin OpenSSH V1.7以上)をインストールしてください。

= 注意事項 =

リモートマシンの動作OSが以下の場合、リモートマシンのWindows Defender Exploit Guardを無効にしてください。有効にするとCygwinの起動に失敗します。

- Windows Server 2022(64-bit)
- Windows Server 2019(64-bit)

インストールレス型ジョブ実行制御機能を使用する場合で、かつ、Systemwalker Operation ManagerサーバのOSがSolarisの場合は、サーバ上にもSSH V2.0以上が必要となります。

留意事項の「クライアントの業務連携について」を参照下さい。

留意事項

1. 64bit環境での動作について

本商品のサーバは、以下のOSで64ビットアプリケーションとして動作します。

- Solaris 11(64bit)

2. Windows デスクトップOS (64-bit)上の動作

サーバの環境設定ならびにジョブ定義用としてWindowsクライアントが必要です。クライアントは、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

- Windows 10(64-bit)
- Windows 11(64-bit)

注) Windows 32-bit On Windows 64-bit

3. リモートマシン用ライセンスの適応機種/適応OS

〔Solaris版〕

以下の機種で動作可能です。

- SPARC Servers
- SPARC Enterprise Mシリーズ
- SPARC Enterprise Tシリーズ
- マルチベンダーサーバ・クライアント
- FUJITSU Cloud Service for SPARC
- パブリッククラウド

以下のOSで動作可能です。

- Solaris 11(64bit)

〔Linux版〕

以下の機種で動作可能です。

- PRIMEQUEST 4000シリーズ
- PRIMEQUEST 3000シリーズ
- PRIMEQUEST 2000シリーズ
- PRIMERGY
- マルチベンダーサーバ・クライアント
- FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O IaaS
- パブリッククラウド

以下のOSで動作可能です。

- Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)

〔Windows版〕

以下の機種で動作可能です。

- PRIMEQUEST 4000シリーズ

- PRIMEQUEST 3000シリーズ
- PRIMEQUEST 2000シリーズ
- PRIMERGY
- マルチベンダーサーバ・クライアント
- FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O IaaS
- FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン
- パブリッククラウド

以下のOSで動作可能です。

- Windows Server 2022(64-bit)
- Windows Server 2019(64-bit)
- Windows Server 2016(64-bit)

4. IPv4ネットワーク/IPv6ネットワークの混在環境について

(1) 動作可能な通信環境

Systemwalker Operation Manager V13.6.0においてIPv6に対応しました。Systemwalker Operation Managerは、以下の環境で利用可能です。また、ネットワーク上で通信環境が混在する場合においても、Systemwalker Operation Managerを利用して、業務運用することができます。

- ・ IPv4環境
- ・ IPv6環境 (*1)
- ・ IPv4/IPv6デュアルスタック環境 (*2)

*1)

IPv4プロトコルを無効にした環境を指します。IPv4をアンインストール(netsh interface ipv4 uninstall)しないでください。【WindowsサーバおよびWindowsクライアントの場合】

Systemwalker Operation Managerで業務運用する場合に、使用可能なIPv6アドレスの種類は、以下のとあります。

- ・ グローバルユニキャストアドレス
- ・ ユニークローカルユニキャストアドレス

*2)

IPv4/IPv6デュアルスタック環境において、Systemwalker Operation Managerは、IPv4アドレスを優先的に使用します。

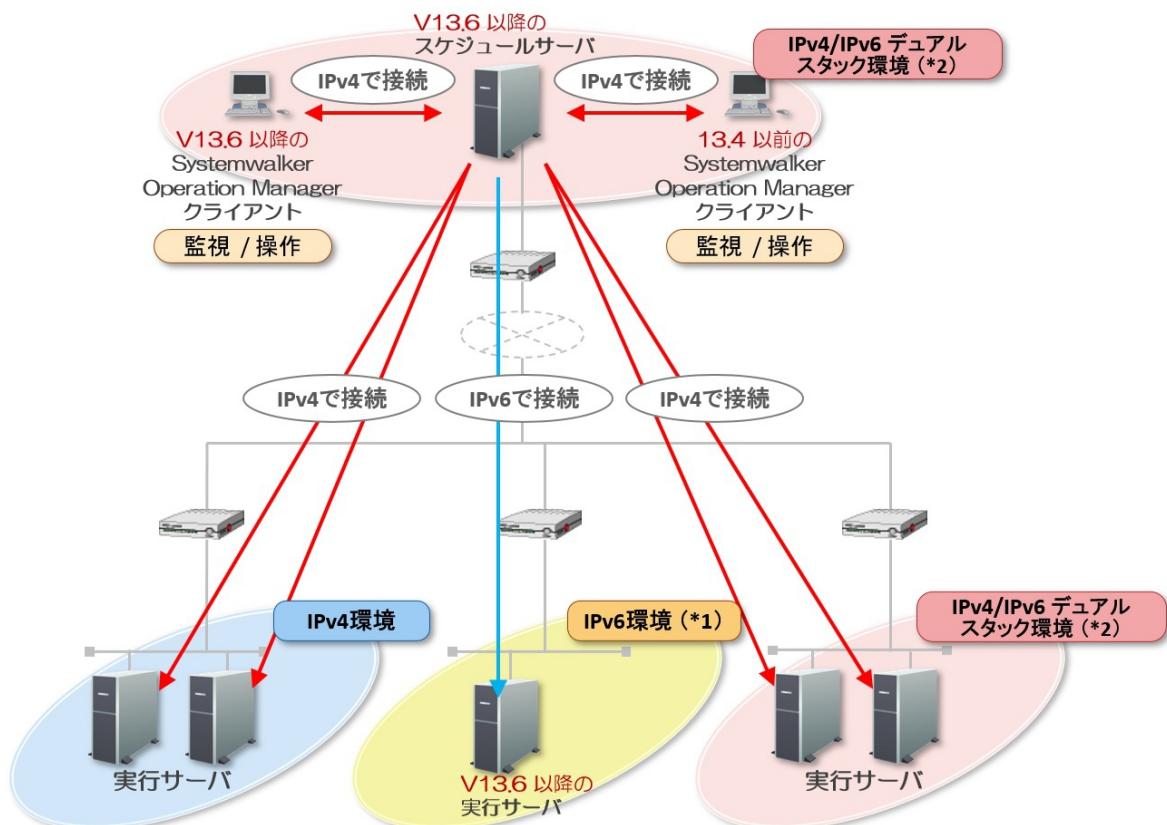
V13.4.1以前のSystemwalker Operation Managerサーバとも接続することができます。この場合もIPv4アドレスを使用します。

IPv4/IPv6デュアルスタック環境で、Systemwalker Operation Managerのサーバを運用する場合、サーバの“hosts”ファイルに、自ホストのホスト名に対するIPv4アドレスとIPv6アドレスの両方を定義してください。

(2) V13.4.1以前の複数サーバ監視クライアントから複数サーバ監視を行う場合

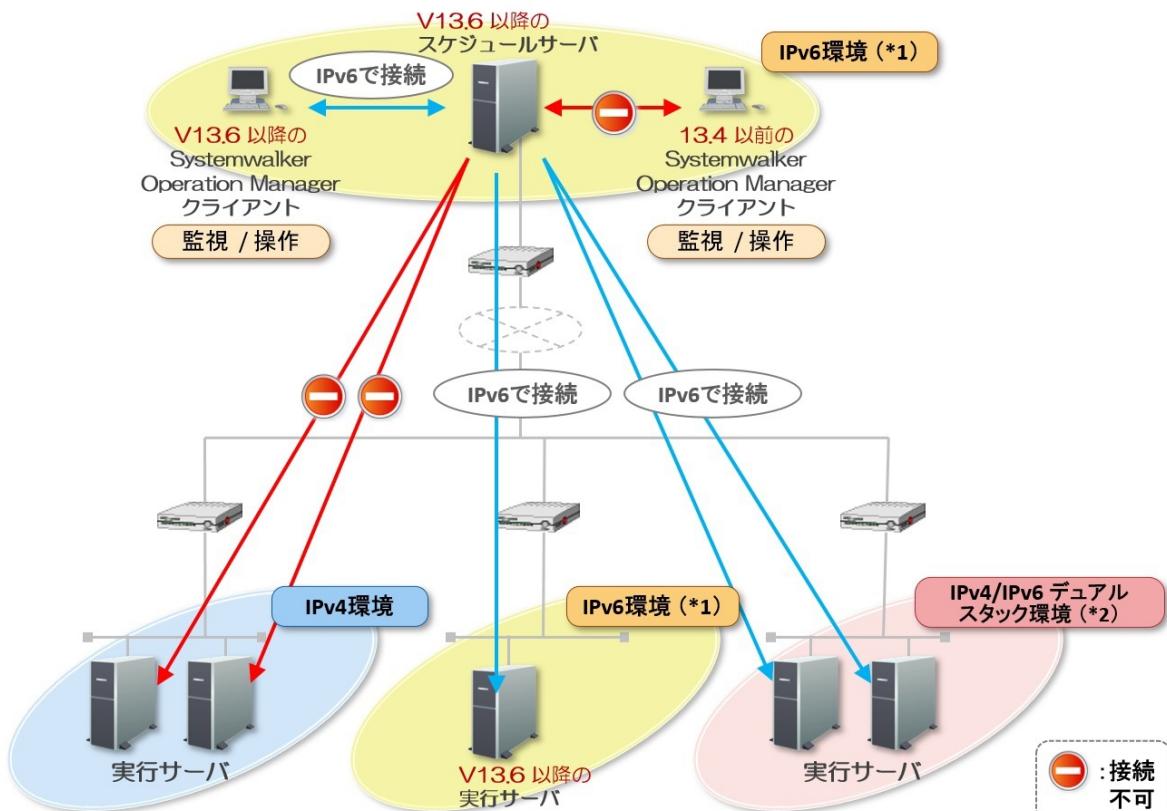
IPv6で通信している監視対象サーバが存在する場合、IPv4で通信している監視対象サーバを含むすべての監視対象サーバについて複数サーバ監視ができません。

ネットワーク上で通信環境が混在する場合の接続例(その1)



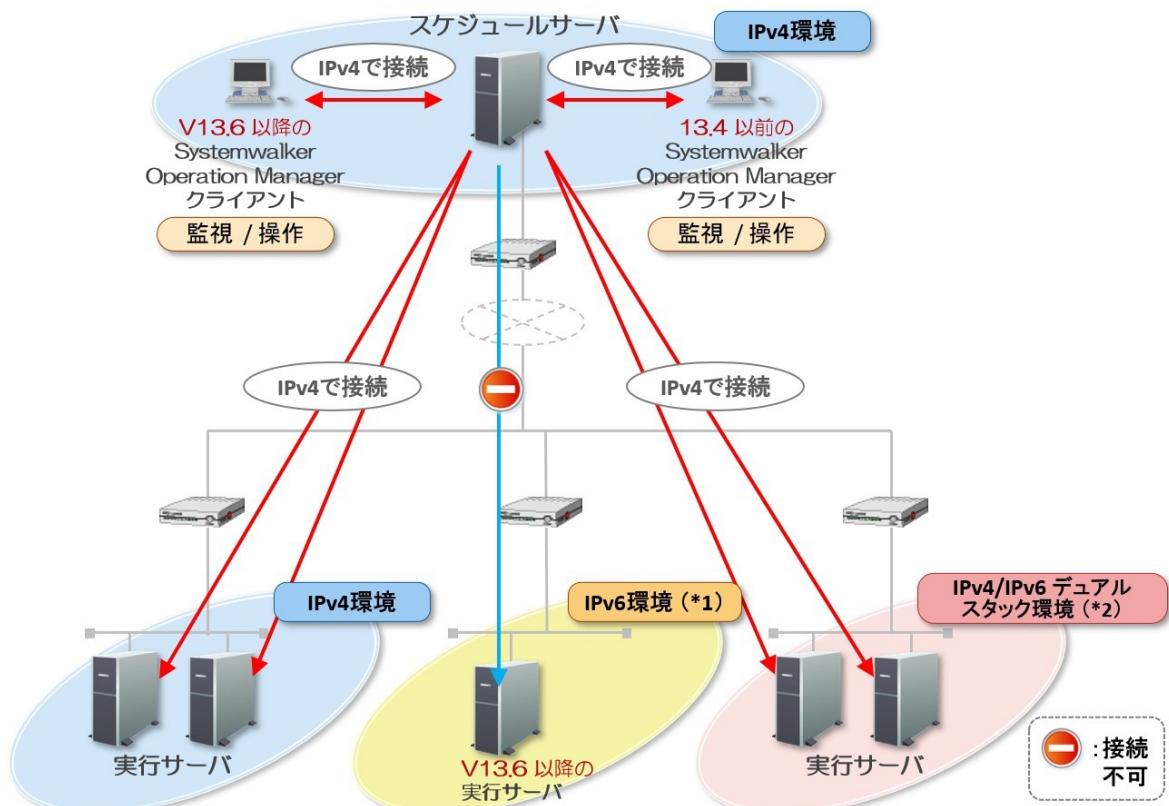
(*1)、(*2)については本留意事項「IPv4 ネットワーク/IPv6 ネットワークの混在環境について」の冒頭説明を参照してください。

ネットワーク上で通信環境が混在する場合の接続例(その2)



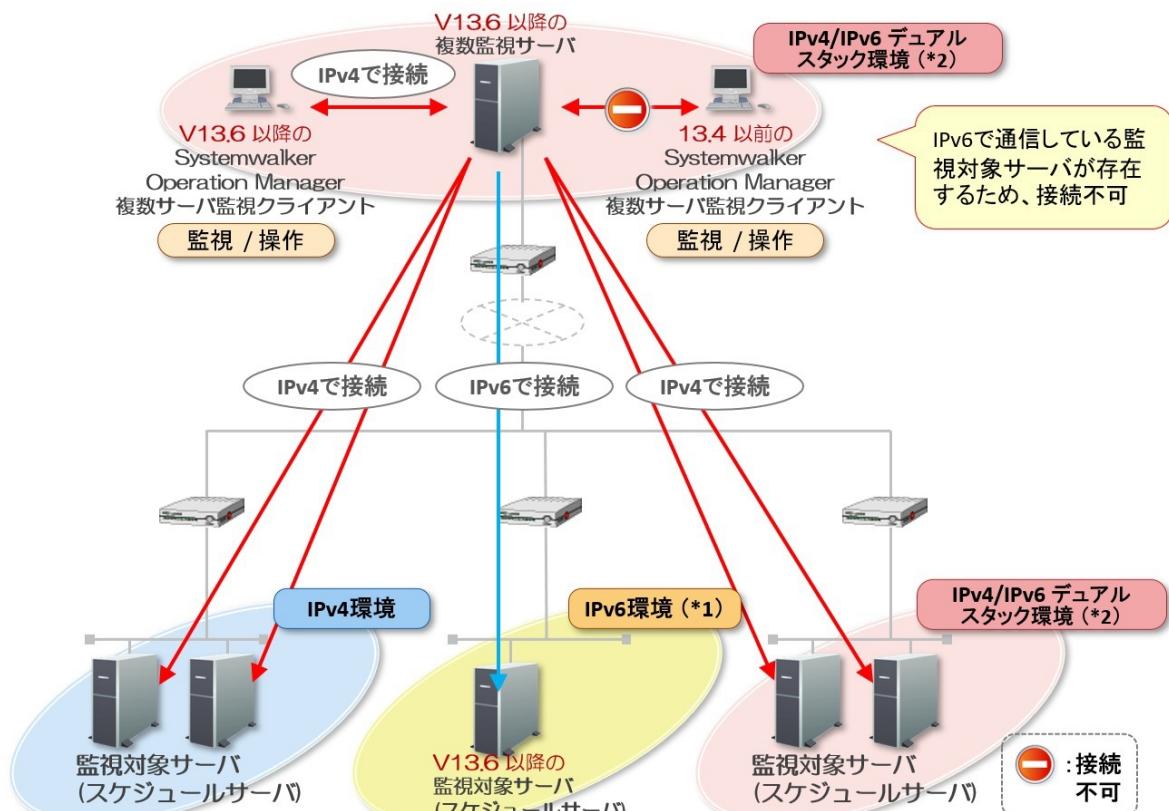
(*1)、(*2)については本留意事項「IPv4 ネットワーク/IPv6 ネットワークの混在環境について」の冒頭説明を参照してください。

ネットワーク上で通信環境が混在する場合の接続例(その3)



(*1)、(*2)については本留意事項「IPv4 ネットワーク/IPv6 ネットワークの混在環境について」の冒頭説明を参照してください。

複数サーバ監視を行う場合のイメージ



(*1)、(*2)については本留意事項「IPv4 ネットワーク/IPv6 ネットワークの混在環境について」の冒頭説明を参照してください。

5. IPv6環境での動作について

(1) 入出力におけるIPv6アドレスの表記について

Systemwalker Operation Managerでは、IPv6アドレスを使用する場合の画面入出力、コマンド入出力、メッセージ出力、ログ/トレース出力において、以下のIPアドレス表記をサポートしています。

- ・非省略表記()

例 => 2001:0db8:0000:0000:0123:4567:89ab:cdef

- ・省略表記()

例 => 2001:0db8::0123:4567:89ab:cdef (“0000”のフィールドを省略)

- ・RFC 5952準拠表記

例 => 2001:db8::123:4567:89ab:cdef

英字部の大文字 / 小文字 / 大小文字混在表記が可能です。

(2) Webコンソールで使用するWebサーバについて

IPv6環境上には、Webコンソールで使用するWebサーバを構築できません。

このため、IPv6環境で運用する場合は、Windowsクライアントで監視を行ってください。

(3) 複数サーバ監視時の監視ホストの設定について

複数のSystemwalker Operation Managerサーバを監視する運用では、監視サーバと監視対象サーバとの間で、それぞれの監視ホストの定義と監視許可ホストの定義のインターネットプロトコルのバージョンが一致している場合に利用することができます。

(4) クライアント電源投入コマンドについて

IPv6環境においては、PONCLI.EXEおよびponcli 電源投入コマンドは使用できません。IPv4環境、またはIPv4/IPv6デュアルスタック環境で使用してください。

6. クラスタシステムの利用について

クラスタシステムには、Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition もしくはSystemwalker Operation Manager Global Enterprise Editionを導入してください。

7. グローバルサーバ上のジョブの実行について

グローバルサーバ上のジョブを実行するためには、Systemwalker Operation Manager Global Enterprise Editionおよびグローバルサーバ上にSymfoNET / 基本運用及びAPSが必要です。

8. Webブラウザについて

Systemwalker Webコンソールを使用する場合、クライアント環境に以下のWebブラウザが必要です。

Microsoft Internet Explorer 11 (1)

Microsoft Edge(Chromium ベース)のIEモード (2)

1) デスクトップ版Internet Explorerでの利用が可能ですが(Microsoft Edgeでは利用できません)。Microsoft Internet Explorer 11は以下のOSで動作可能です。

- ・Windows Server 2022

- ・Windows Server 2019

- ・Windows Server 2016

2) Microsoft Edge(Chromium ベース)のIEモードは以下のOSで動作可能です。

- ・Windows 11

- ・Windows 10

9. 旧バージョンとの整合性について

(1) クライアントから旧版のサーバに接続を行う場合、以下の注意が必要です。

- 旧版のサーバで提供されていない機能は使用できません。

(2) 旧版のクライアントからは、今版のサーバに接続できません。

10. Web コンソール/Web APIの暗号化通信について

Web コンソール/Web APIの暗号化通信(SSL: Secure Socket Layer)の利用時に、証明書を作成するためには、認証局(証明書発行局)が必要です。扱える証明書の種類については、「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「関連ソフトウェア」をご覧ください。

11. Interstage連携について

Interstage属性のジョブを起動させる場合、64ビット版のInterstage Application Serverと組み合わせる必要があります。

なお、連携可能なInterstage Application Serverのバージョンレベルおよびワークユニットについては、マニュアル「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「関連ソフトウェア」をご覧ください。

12. クライアントの業務連携について

クライアント業務連携機能でクライアントの電源制御を行う場合、以下のハードウェアが必要です。

[クライアントの電源投入]

以下のすべての条件を満たすハードウェアが必要です。

- Wakeup on LANをサポートしている機種である。
- Wakeup on LANをサポートしているLANカードが実装されている。
- Wakeup on LANによる電源投入がBIOSレベルで有効になっている。

[クライアントの電源切断]

以下のいずれかの条件を満たすハードウェアが必要です。

- APM(Advanced Power Management)
- ACPI(Advanced Configuration & Power Interface)をサポートしている機種で、かつ、Windowsからの電源切断が可能になっている。

13. zone機能に関する注意事項

non-global zone/Kernel zoneに対する電源制御はできません。global zoneにSystemwalker Operation Managerがインストールされていれば、global zoneに対する電源切断が可能です。

14. Job Designerツールについて

Job Designerツールを使用する場合、Excelのメニューバー(リボン)は、使用しないでください。使用した場合は、セルの情報が書き換えられ、正常にオペランドのチェックやジョブネット定義CSVファイルが出力されないことがあります。

15. パッケージ構成について

Systemwalker Operation Manager Standard Edition メディアパックには、以下のプログラムおよびマニュアルが同梱されています。

- サーバプログラム
- クライアントプログラム
- オンラインヘルプ
- オンラインマニュアル
- ソフトウェア説明書

16. オンラインマニュアルについて

オンラインマニュアルは以下の通りです。

- Systemwalker Operation Manager マニュアル体系と読み方
- Systemwalker Operation Manager リリース情報
- Systemwalker Operation Manager 入門ガイド
- Systemwalker Operation Manager 解説書
- Systemwalker Operation Manager 活用ガイド
- Systemwalker Operation Manager 導入ガイド
- Systemwalker Operation Manager 設計ガイド
- Systemwalker Operation Manager 運用ガイド
- Systemwalker Operation Manager 移行ガイド
- Systemwalker Operation Manager リファレンス集
- Systemwalker Operation Manager メッセージ集
- Systemwalker Operation Manager 用語集
- Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド
- Systemwalker Operation Manager Q & A 集
- Systemwalker Operation Manager マスタスケジュール管理 ユーザーズガイド
- Systemwalker Operation Manager Webコンソール操作ガイド
- Systemwalker Operation Manager Job Designer ユーザーズガイド
- Systemwalker Operation Manager クラスタ適用ガイド Windows編
- Systemwalker Operation Manager クラスタ適用ガイド UNIX編
- Systemwalker Operation Manager Global Enterprise Edition ユーザーズガイド

17. エディションおよび動作OSによる機能差について

エディションおよびOSの機能差につきましては、マニュアル「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「OS別機能差一覧」をご覧ください。

18. 前版との違いについて

以下の環境については、サポート対象外となります。

- Windows 8.1 (64bit) (クライアント動作OS)
- Microsoft(R) Excel 2013(x86/x64版) (Job Designer機能の前提商品)

お客様向けURL

- ・ **ソフトウェア：富士通（Systemwalker Operation Manager）**

製品概要や動作環境、導入事例、価格等、製品紹介資料を幅広く提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/software/systemwalker/operationmgr/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（ソフトウェアの一覧表（システム構成図）と各種対応状況）**

価格/型名の一覧（システム構成図）を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）**

「ライセンスについて、くわしく知る」の項で、富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポートポリシーなどの情報を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/>